



日 都 第 2114 号
平成 19 年 4 月 25 日

国土交通省道路局長 殿

日田市長 大石 昭 忠



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成 19 年 4 月 2 日付け国道企第 114 号で依頼のありました上記の件につきまして、
別紙のとおり提出します。

「道路特定財源の見直しに関する具体策」に関する意見書

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える基盤であり、その整備に対する要望は地方都市である本市では非常に強いものがあります。

日田市は平成17年3月に旧1市2町3村が合併し、市域が大幅に拡大しました。市域の大半を険しい山々が占めることから、道路交通体系の整備が遅れ、交通利便・安全性の向上に大きな支障となり、新しいまちづくりを考えるうえで最重要課題となっております。

新市の目指す将来都市像「人と自然が共生し、やすらぎ・活気・笑顔に満ちた交流都市」の実現のためには、新市が一体となりまちづくりに取組まなければなりません。

本市には自然や歴史・文化等様々な特色ある地域資源を数多く有しています。これらの資源を活用し地域の発展に結びつけていくには、相乗的な連携が大切であり、市域の一体化や連携強化を支える骨格となる幹線道路網の充実が必要不可欠であります。

しかしながら、大半を険しい山々が占める地形上の制約から道路整備はまだまだ遅れており、幅員は狭くカーブも多く、安全・安心とは到底言える状況ではありません。

また、移動時間についても市の中心部から周辺部まで最大1時間以上を要し、道路整備の遅れが地域資源を生かしきれない要因となっております。

日常生活の利便性・医療施設へのアクセス・防災対策などを充実し、地域定住を促進し、若者の住む活気あふれる地域づくりのためには、国・県道等の地域を連携する幹線道路網の早期整備促進が強く望まれています。

広域的な観点におきましては、北部九州内陸部の交通の要衝にある特性を生かし、福岡都市圏や県内外各地域とのさらなる地域間交流の促進や企業誘致など活力ある地域づくりを行うためには、地域高規格道路「中津日田道路」の本市までの開通が切に待たれるところであります。本年3月には一部国の整備代行が決定し、整備促進が図られますことに大変感謝を申し上げますと共に、今後の更なる取組みと計り知れない大きな経済効果を期待しているところでございます。

昨年には「日田市の明日の道を想う女性の会」が発足し、女性や暮らしの視点に立ち、家族が安心して暮らせ、若者が定住できる地域づくりのために必要な「中津日田道路」の一日も早い完成について要望を行ったところでもございます。

いずれにしましても市町村合併後による市域の広域化をはじめ、地方の自立性が求められる地方分権の推進や少子高齢化の進行、住民ニーズの多様化など本市を取り巻く社会情勢の変化に対応し、本市の目指すまちづくりのためには、その生命線となる道路交通体系の整備がまだまだ必要です。

このような状況の中、政府が進める道路特定財源の一般財源化は、合併して懸命に地域を維持・発展・自立をしていかなければならない自治体にとって生命線を奪いかねない政策と感じています。

中央からものを見るのではなく、道路特定財源が地方にとってまだまだ必要であるとの認識にお立ち戴き本来の目的に使われることを望んでやみません。

最後に、重ねて道路整備の遅れている地方の現状と必要性を十分ご理解いただき、道路整備の原資となる道路特定財源の確保と、地方の道路整備に積極的に取り組んでいただくことを強く要望し、日田市の意見といたします。

平成19年4月25日

国土交通省道路局長 殿

日田市長 大石 昭 忠

